



一般社団法人
メディカルスタディ協会

◇ 中島 慶八郎氏の医療ブッタ切り 第 19 回 「医療費」 ◇

文／中島 慶八郎 氏

医療費

厚労省の発表によると、2012 年度の医療費は 38.4 兆円である。年間 1 兆円増加していることから、2014 年は 40 兆円を超えることが予想される。

8 月中旬の日刊紙、Y 紙の報道によれば一人当たりの医療費が県別にランキングされていたが、トップは高知県の 60 万円、ラストは千葉県の 30 万円と、2 倍の差があった。この事から医療費について検討してみたい。

まず、医療費の 70%は病院（20 床以上）で、そのうち診療所は 30%である。

また、県別に人口構成を考える必要がある。男性と女性、高齢化率等である。高齢化率が高ければ、一人当たりの医療費は多くなると思われる。では、県別の医療機関の構成はどうであるか？病院が多い県は一人当たりの医療費が高くなるかもしれない。

県別による疾患構成の違いがあれば、それも要因と言える医療費が、多いから悪い、少ないから良い。のではなく、寿命との関係をみてはどうか？男女ともに日本一長寿の長野県は 42 万円で低いランクである。医療費と寿命はあまり関係がないのかもしれない。介護保険給付の一人当たりの県別ランキングが出ていないので寿命との関係は問題が多いが、医療費は少なくとも介護費が多かったりするため医療費と介護費とを併せて考える必要がある。そのほかに、検診の受診状況、ワクチン等の接種状況、県別に県民の健康に対する行政の取り組みと格差があるのではないか？

適度な睡眠、バランスのとれた食事、適度な運動、そしてストレスをうまく発散できる生活対応が医療費を抑える大きな要素ではないだろうか？